（別紙4）　　　　令和　　5　　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2171200302		
法人名	特定非営利活動法人ソーシャル・ネットワーク		
事業所名	グループホームぬくもりの里かもの		
所在地	岐阜県美濃加茂市加茂野町鷹之巣2239番地		
自己評価作成日	令和5年8月5日	評価結果市町村受理日	令和5年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171200302-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地
訪問調査日	令和5年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

浴室を大改修しリフト浴を導入したことにより、自力での入浴が困難な方でも安楽・安全に入浴していただけます。感染症予防対策として、定期的な職員のPCR検査やオゾン発生器を各箇所に設置することで感染予防に努めております。簡易陰圧装置を2台導入し、万が一、新型コロナウイルスやインフルエンザに罹患されても安心してお過ごしいただけます。行事やイベントに力を入れており、定期的に行われる誕生日会は毎回、内容（レクやおやつ等）が同じにならないよう工夫し、季節ごとに企画することで良い刺激となるよう努めている。運営推進会議にて地域のイベント等の情報を得た際は、感染状況など検討しつつ可能な限り参加し、外出の機会と共に外部の方々と触れ合う機会を設けている。今年はここ数年、コロナ禍で中止していた旅行も再開し、なばなの里に日帰り旅行を行った。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

職員は、忙しくても慌てずにゆっくりと対応することを心がけ、利用者が穏やかな日々を過ごせるように取り組んでいる。利用者が納得して次の行動が出来るように、待つことも大切にしている。食材の買い出し・食事の準備や片付け・掃除など役割分担があり、やりがいが認知症の進行予防にも繋がっている。おやつや行事食を一緒に作ったり、家族の協力も得て外出機会を多く作り、日帰り旅行に出かけたりして楽しみのある生活を工夫して支援している。3ヶ月毎に開催する社労士による労使会議に各ユニットの代表者が出席して、制度の説明や労務に関する質問など意見交換をし、働きやすい職場を目指して職員も勉強する機会がある。自治会から避難訓練に参加しやすい方法や「ご近所見守り隊」の活用・非常時を知らせる手段など協力関係を築く提案があり、地域に受け入れられた事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№.1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに〇印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：15）		1. ほぼ全ての利用者の
		〇	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：14,27）		1. 毎日ある
		〇	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：27）		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：25,26）		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：36）		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：20）	〇	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：18）	〇	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに〇印	
50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：8,9）		1. ほぼ全ての家族と
		〇	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		〇	3. たまに
			4. ほとんどない
52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：3）		1. 大いに増えている
		〇	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
53	職員は、活き活きと働けている （参考項目：10,11）		1. ほぼ全ての職員が
		〇	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		〇	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

グループホームぬくもりの里かもの

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月２回のカンファレンスにて、法人理念、介護理念を唱和し、理念の共有をしています。また「おだやかにゆっくりと」をモットーに掲げ常に意識し声をかけあい介護を行っています。	管理者は、職員が慌てると利用者に伝わり影響を与えるので、時間を気にせず「ゆっくりと穏やかに」接するように指導している。職員は、声かけをする時など、理解してもらえるよう利用者に合わせた言葉で丁寧にゆっくりと対応するように心がけて取り組んでいる。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や地域ボランティアの受け入れをしている。	ボランティアの訪問があり、歌や手遊び・手品・大正琴など利用者も一緒に楽しんでいる。散歩時に挨拶をしたり、地域行事や認知症の人の集まりなどに参加したりして交流している。また、地域の農家から米を購入し、近所の方から野菜をもらうこともある。	
3	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夜間に運営推進会議を開催しており、大半の方にご参加いただいております。ご意見や要望等を受け、当施設への取り組みに活かしています。また、会議の内容もご家族様への毎月のお手紙と一緒に同封し報告しています。	参加者から議題ごとに要望や助言を受けて話し合っている。地域の行事や情報も得ている。「事業所の避難訓練の年間計画があると、自治会の年間計画に組み入れ避難訓練に参加しやすくなる」「事業所の非常時を近所に知らせる仕組みがあると良い」などの意見を活かして地域との協力体制作りに取り組んでいる。	
4	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、情報交換を行い連携を心掛けています。	電話やメールで連絡を取り合うことが多いが、書類提出時に市の担当者に事業所の現状を伝えている。運営に関することや申請書類などの質問や相談に出向くこともある。市開催の会議や研修は、必要に応じて参加している。	
5	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の定期的な開催と施設内外での研修を実施し、全ての職員に周知し身体拘束しないケアを常に確認し合い実践している。	医師の指示により点滴時のみ拘束することがあったが、家族に説明し同意書を得ている。身体拘束適正化委員会の定期的な開催と職員研修を実施して、身体拘束をしないケアを理解して取り組んでいるが、研修記録の確認ができなかった。	研修内容を欠席者にも周知して、全職員が共有できるように研修記録の作成を期待する。
6	（6）	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても、施設内外にて研修を実施し周知することで、全ての職員が虐待防止についての共通の認識を持っている。	勉強会や他の施設の事例などを参考にして話し合い、どのようなことが虐待に当たるかなど、共通の認識を持って注意を払い虐待の防止に努めている。不適切な言葉や対応など気づいた時は、互いに注意し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては外部研修にて学んでいる。学んだことを活用できるよう支援していきます。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者やその家族の方に対して、十分な説明を行い、疑問点や不安なことなど時間をかけて理解していただけるよう努めている。		
9	（7）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の訪問時等の際に、ご意見やご要望などをお聞きしている。頂いたご意見等はすぐに検討し対応させていただいている。	家族の要望は、訪問時や電話で聞いている。請求書送付時に、担当職員が利用者の様子や写真を添えた手紙を入れ、希望を聞くこともある。オムツなどの物品購入について提案があり、全家族にアンケートを取って意思を確認した。利用者の要望を受け、家族に定期的に電話をかけてもらうよう依頼している。	
10	（8）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員代表を選出し、労使会議にて意見や提案を聞く機会を作り話し合っている。	管理者は、日々の業務中や月２回の会議で提案や要望を聞いている。会議では、必ず一人ひとり同じ内容であっても自分の言葉で意見を言うことを伝えている。ケアや物品の購入などの提案を話し合って対応している。	
11	（9）	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	管理職や職員の個々の実績や努力、勤務状況などを把握し、それを基に考課表により問題点をあげ各自が向上が持てるように職場環境や条件の整備に努め楽しくやりがいを持って働けるようにしている。	職員の家庭事情に配慮した勤務を組み、連休や休暇取得などの希望を取り入れている。自己評価・管理者評価・上司評価から人事考課を行う時の面談で職員の希望や思いを聞き、向上心を持って働けるような環境の職場作りに努めている。	
12	（10）	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理職や職員に対して外部研修、施設内研修を行っている。また、資格取得については積極的にスキルアップを図れるようバックアップしている。	法人内の研修は、パート職員も含め全員が受けられるようにしている。外部の希望する研修参加には、勤務変更などをして受講できるようにしている。人事考課を基に資格取得や力量に合わせた法人が進める研修参加は、勤務扱いとし費用負担もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会つくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍で同業者との交流は思うように行えていないが、他施設との交流の機会があれば情報交換を行い、サービス向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	配膳や洗い物、洗濯干しやたたむ等、以前からされていた事を通じて、レクリエーションや物つくり等を一緒に行う時間を設け、関わりを持つようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話から趣味や特技を把握し、意向に沿った支援を行えるよう努めている。	日頃の会話や様子から思いや意向を把握している。選択肢を用意して言い易いように工夫もしている。困難な人の場合は、声かけをして反応や行動から思いを把握するようにしている。ケーキが食べたい・お酒を飲みたいなどの思いは、誕生会や夕食時に対応している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限りご家族様同席での担当者会議の開催を心掛けているが、困難な場合はお電話にて確認させていただき、介護計画を作成している。	月２回行うカンファレンスで利用者全員の現状や気づきを話し合っている。家族の要望は、訪問時や電話で聞き、カンファレンスと介護記録を基にモニタリングを行い介護計画を作成している。状態に変化があれば話し合い必要に応じて計画の追加や見直しをしている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別で介護記録に記入し職員間で情報共有し、より良いケアに努めている。	日々の様子や気づき・実施したことを個々の介護記録に記入している。重要な事は、申し送りノートに記録し、口頭でも伝えて情報を共有している。個別の介護記録をカンファレンスの報告時や介護計画の見直しに活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の要望について柔軟な支援をするように努めています。変化があれば変更し、報告するよう努めています。	医療機関受診の付き添いや日用品などの物品の購入を家族の要望で支援している。葬儀の参列に付き添ったこともあり、柔軟な対応に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設避難訓練の際に地域の方にも参加していただけるように自治会への働きかけを行っている。		
20	（15）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、協力医はご本人様やご家族様の意向に合わせている。他科受診はご家族様に依頼することでご本人様の状態等をご家族様と共有し連携に努めている。	入居時に本人・家族の意向で協力医に変更して訪問診療を受けている。専門医受診は家族が付き添い、受診時に情報提供書を渡して医師より報告を受けている。家族の要望で看護師が同行することもある。訪問歯科診療や協力医の訪問看護を受けている人もいる。	
21	（16）	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には安心して治療が受けられるようにご家族様や病院を良好な関係が保てるように努めている。病院の相談員との連携を図り関係作りを行っている。	入院時は、医療機関にサマリーを提出して電話で連絡を取り合っている。退院に向けて相談員や家族と相談しながら事業所の食事形態はどこまで可能なのかなど利用者が安心して生活できるように取り組んでいる。	
22	（17）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化に伴い、その都度、医師やご家族様、看護師などと話し合いながら対応し、看取りケアを行っています。救急対応は消防署や看護師による指導にて職員全員研修を受けております。	入居時に事業所の方針を説明している。状態に応じてその都度、看護師より家族に説明して、話し合いながら意思を確認している。看取り期は介護計画を変更し、家族の宿泊も可能の旨を伝えている。看護師の指導の基、職員・家族が一緒になって終末期の支援に取り組んでいる。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は応急手当や初期対応の講習を行い、実践力を身に付けるよう努めている。		
24	（18）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の火災を想定した避難訓練を定期的に行っています。近隣の地域の方との連絡網を作成し、地域との協力体制が図られている。災害時の避難場所としての受け入れを受託している。水害に対する避難訓練も行なっている。	火災や水害を想定して利用者も一緒に避難訓練を行った。夜間想定の訓練も計画している。水・食糧や介護用品などの備蓄をしている。事業所の避難訓練を自治会の年間計画に取り入れる事や近隣お助け隊との連携などがあり、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、トイレ前や居室入り口にカーテンを設置し外から見えにくいよう配慮している。人生の先輩として尊重し言葉かけや対応をしています。	職員は、言葉遣いや対応に気を付けて、一人ひとりに合わせた声かけをしている。トイレや入浴の際は、カーテンの外でそっと見守るなど、それぞれに合わせた対応をしてプライバシーに配慮した支援に取り組んでいる。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の色々な場面で自己決定ができるよう支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしできる限り希望に沿った支援をしています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、献立表を立て誕生日や行事に合わせて、メニューを変更しています。行事食を一緒に作ったり、配膳を一緒に行ったり、楽しみをもっていただけるよう工夫をしています。	週に一度、利用者と一緒に買い出しに行っている。利用者の希望は、誕生日や行事食に取り入れている。鰻や寿司などの出前を取ったり、花見団子や昼食を弁当風に作って中庭で楽しんだりしている。配膳や後片付けなど利用者の出来ることを一緒に行っている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや水分補給は毎食後に摂取量を記入し、個々の栄養管理に努めている。体重測定は月１回行い目安としています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っています。ケア困難な方や不十分な方は介助させていただき口腔衛生に努めています。	歯科医師や看護師の指導を受けて、毎食後口腔ケアを行っている。自分で行う人もあるが、困難な方や不十分な方の支援をし、口腔内を確認して清潔の維持に努めている。訪問歯科診療を利用している利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄チェック表から利用者様の排泄パターンを把握し、できる限りトイレにて排泄できるよう支援している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	リフト浴の導入により、立位困難になった方でも安心安楽に入浴を楽しんで頂いている。また、入浴順を決めず、その日の体調や気分に応じて入浴していただけるよう努めている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調を考え、午前と午後に休息時間を設けています。足背や下肢に浮腫がある方には足挙上にて改善に努めています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の介護記録に薬の説明書が綴ってあり、薬のことが一目でわかるようになっています。服薬時には名前や日付などを利用者様と一緒に声出し確認をし、誤薬のないよう細心の注意を払っています。	利用者の薬の内容は薬剤情報で理解している。訪問診療後に協力医の薬剤師が配薬に来て、看護師が管理している。服薬前に利用者と一緒に確認し、服薬後も口の中を見て服薬できたか確認している。薬の変更時は薬剤師・看護師・職員へと伝えている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人それぞれにあった役割を見つけ支援を行っています。外出などで気分転換を図っています。	洗濯物たたみや掃除・食事の準備や片付けなどの役割があり、作品作りなど得意なことを楽しみながら行い、張り合いや喜びのある生活を支援している。散歩をしたり洗濯物を干したりと外気に触れて気分転換が出来る支援もしている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出掛けるなど戸外にでる機会を作っています。中庭にておやつを食べたり、写真撮影をしたりしている。また、ご家族様の協力のもと、散歩に出掛けられたり、喫茶店等に外出されることもあります。	近隣の散歩や中庭でできる楽しみごとを工夫して、戸外に出る機会を作っている。ドライブを兼ねて喫茶店やファミリーレストランに出かけている。家族の協力で喫茶店や外出することもある。今年は「なばなの里」まで日帰り旅行をした。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、入所されている方でお金を所持されている方がいない為、支援していません。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やお友達の方との電話をお取次ぎさせていただいたり、耳の遠い方にはご家族様にお手紙を書いていただくなどの支援を行っている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには利用者様が共同作業で作成した当月の作品を掲示し、廊下にはその他の月の作品が飾られており季節感を表現しています。写真も多く貼り、会話のきっかけになるようにしている。	整理整頓に気を配り、利用者とともに拭き掃除などをして清潔な環境の維持に努めている。換気や消毒をこまめに行い、空気清浄機やオゾン発生器などを置いて環境に配慮している。居間や廊下に共同作品や行事と皇室の写真を飾り、季節感や会話のきっかけを作っている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには2人掛けと3人掛けのソファが置かれ、寛ぎの空間となっています。廊下のベンチは憩いの場となっております。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の希望で畳を部分敷にしたり、TVや箪笥などの調度品を置いています。居室にはご家族様との写真を掲示しています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーになっておりトイレ、廊下には手すりが設置されていて、安全・安心して自由に自立した生活がおくれるようになっています。		

（別紙4）　　　令和　　5　　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2171200302		
法人名	特定非営利活動法人ソーシャル・ネットワーク		
事業所名	グループホームぬくもりの里かもの		
所在地	岐阜県美濃加茂市加茂野町鷹之巣2239番地		
自己評価作成日	令和5年8月5日	評価結果市町村受理日	令和5年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171200302-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和5年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：15）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：14,27）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：27）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：25,26）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：36）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：20）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：18）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：8,9）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：3）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
53	職員は、活き活きと働けている（参考項目：10,11）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月２回のカンファレンスにて、法人理念、介護理念を唱和し、理念の共有をしています。また「おだやかにゆっくりと」をモットーに掲げ常に意識し声をかけあい介護を行っています。		
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や地域ボランティアの受け入れをしている。		
3	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夜間に運営推進会議を開催しており、大半の方にご参加いただいております。ご意見や要望等を受け、当施設への取り組みに活かしています。また、会議の内容もご家族様への毎月のお手紙と一緒に同封し報告しています。		
4	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、情報交換を行い連携を心掛けています。		
5	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の定期的な開催と施設内外での研修を実施し、全ての職員に周知し身体拘束しないケアを常に確認し合い実践している。		
6	（6）	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても、施設内外にて研修を実施し周知することで、全ての職員が虐待防止についての共通の認識を持っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては外部研修にて学んでいる。学んだことを活用できるよう支援していきます。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者やその家族の方に対して、十分な説明を行い、疑問点や不安なことなど時間をかけて理解していただけるよう努めている。		
9	（7）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の訪問時等の際に、ご意見やご要望などをお聞きしている。頂いたご意見等はすぐに検討し対応させていただいている。		
10	（8）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員代表を選出し、労使会議にて意見や提案を聞く機会を作り話し合っている。		
11	（9）	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	管理職や職員の個々の実績や努力、勤務状況などを把握し、それを基に考課表により問題点をあげ各自が向上が持てるように職場環境や条件の整備に努め楽しくやりがいを持って働けるようにしている。		
12	（10）	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理職や職員に対して外部研修、施設内研修を行っている。また、資格取得については積極的にスキルアップを図れるようバックアップしている。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会つくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍で同業者との交流は思うように行えていないが、他施設との交流の機会があれば情報交換を行い、サービス向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	簡単な洗濯物を畳んでいただいたり、新聞たたみをしていただいたり、それぞれのレベルに合わせ出来ることを見極めお手伝いしていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話から趣味や特技を把握し、意向に沿った支援を行えるよう努めている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限りご家族様同席での担当者会議の開催を心掛けているが、困難な場合はお電話にて確認させていただき、介護計画を作成している。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別で介護記録に記入し職員間で情報共有し、より良いケアに努めている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の要望について柔軟な支援をするように努めています。変化があれば変更し、報告するよう努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設避難訓練の際に地域の方にも参加していただけるように自治会への働きかけを行っている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、協力医はご本人様やご家族様の意向に合わせている。他科受診はご家族様に依頼することでご本人様の状態等をご家族様と共有し連携に努めている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には安心して治療が受けられるようにご家族様や病院を良好な関係が保てるように努めている。病院の相談員との連携を図り関係作りを行っている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化に伴い、その都度、医師やご家族様、看護師などと話し合いながら対応し、看取りケアを行っています。救急対応は消防署や看護師による指導にて職員全員研修を受けております。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は応急手当や初期対応の講習を行い、実践力を身に付けるよう努めている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の火災を想定した避難訓練を定期的に行っています。近隣の地域の方との連絡網を作成し、地域との協力体制が図られている。災害時の避難場所としての受け入れを受託している。水害に対する避難訓練も行なっている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、トイレ前や居室入り口にカーテンを設置し外から見えにくいよう配慮している。人生の先輩として尊重し言葉かけや対応をしています。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の色々な場面で自己決定ができるよう支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしできる限り希望に沿った支援をしています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	年間の献立を立てていますが、誕生日や行事に合わせて、その都度メニューを変更したり、外出時には外食をしたりすることもあります。また、ペースト食でも楽しんで食べていただけるようにいろどりや味も工夫している。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや水分補給は毎食後に摂取量を記入し、個々の栄養管理に努めている。体重測定は月１回行い目安としています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っています。ケア困難な方や不十分な方は介助させていただき口腔衛生に努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄チェック表から利用者様の排泄パターンを把握し、できる限りトイレにて排泄できるよう支援している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	リフト浴の導入により、立位困難になった方でも安心安楽に入浴を楽しんで頂いている。また、入浴順を決めず、その日の体調や気分に応じて入浴していただけるよう努めている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調を考え、午前と午後に休息時間を設けています。足背や下肢に浮腫がある方には足挙上にて改善に努めています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の介護記録に薬の説明書が綴ってあり、薬のことが一目でわかるようになっています。服薬時には名前や日付などを利用者様と一緒に声出し確認をし、誤薬のないよう細心の注意を払っています。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人それぞれにあった役割を見つけ支援を行っています。外出などで気分転換を図っています。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出掛けるなど戸外にでる機会を作っています。中庭にておやつを食べたり、写真撮影をしたりしている。また、ご家族様の協力のもと、散歩に出掛けられたり、喫茶店等に外出されることもあります。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、入所されている方でお金を所持されている方がいない為、支援していません。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やお友達の方との電話をお取次ぎさせていただいたり、耳の遠い方にはご家族様にお手紙を書いていただくなどの支援を行っている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには利用者様が共同作業で作成した当月の作品を掲示し、廊下にはその他の月の作品が飾られており季節感を表現しています。写真も多く貼り、会話のきっかけになるようにしている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには2人掛けと3人掛けのソファが置かれ、寛ぎの空間となっています。廊下のベンチは憩いの場となっております。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様のご希望でテレビやキャビネット、時計などご自宅で使用していた物を持ってきていただいている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーになっておりトイレ、廊下には手すりが設置されていて、安全・安心して自由に自立した生活がおくれるようになっています。		